

PAT-NO: JP 361123390A

DOCUMENT-IDENTIFIER JP 61123390 A

TITLE: DIAPHRAGM OF SQUARE TYPE
SPEAKER

PUBN-DATE: June 11, 1986

INVENTOR-INFORMATION:

NAME

HIYOUKI, KAZUNARI

ASSIGNEE-INFORMATION:

NAME

COUNTRY

MATSUSHITA ELECTRIC IND CO LTD

N/A

APPL-NO: JP 59244975

APPL-DATE: November 20, 1984

INVENTOR-ADDRESS: HIRAKAWA 1-1-2

ABSTRACT:

PURPOSE: To make easy the decision of the position to be stucked and to reduce the unit cost of the parts by making the peripheral part of cone surface in a circular truncated cone into a flat rectangle and to stick an edge on its peripheral part.

CONSTITUTION: A square flat part 2 is provided on the peripheral part of the cone surface 1 of the circular truncated cone. An edge 3 is stucked on the square cone surface having a collation 4 as a on a square flat corner reinforced **rib** to form a **diaphragm**. Thus, expenses of metallic and the unit cost of the parts are reduced.

⑫ 公開特許公報(A)

昭61-123390

⑪ Int. Cl.⁴

H 04 R 7/12

識別記号

庁内整理番号

Z-7205-5D

⑬ 公開 昭和61年(1986)6月11日

審査請求 未請求 発明の数 1 (全3頁)

⑭ 発明の名称 角形スピーカの振動板

⑮ 特 願 昭59-244975

⑯ 出 願 昭59(1984)11月20日

⑰ 発 明 者 表 木 一 成 門真市大字門真1006番地 松下電器産業株式会社内

⑱ 出 願 人 松下電器産業株式会社 門真市大字門真1006番地

⑲ 代 理 人 弁理士 中尾 敏男 外1名

明 細 書

1. 発明の名称

角形スピーカの振動板

2. 特許請求の範囲

角形構造の振動板として、コーンネック部より円錐状の構造をなし、コーン周辺部に角形の平面部を設けるとともに、その角形の平面部コーナにコルゲーションを設けて補強した角形コーン面に環状をなすエッジを貼り合せてなる角形スピーカの振動板。

3. 発明の詳細な説明

産業上の利用分野

本発明は、一般音響機器に適用される角形スピーカの振動板に関するものである。

従来の技術

従来この種の角形振動板は、第4図、第5図a、bのような構造になっていた。すなわち、コーン面BはO-B断面部コーンのアールの大きさと、O-C断面部コーンのアールの大きさが異なった角形コーン面に環状エッジを貼り合せた角形コー

ンの振動板であった。

発明が解決しようとする問題点

ところが前者の振動板の構成であると、コーン面Bを作るには、コーン面のアールの大きさがO-BよりO-Cまでの45°間で違ってくる為、金型費が高くなり、又コーン周辺部とエッジ部の貼り合せ時の位置ぎめが困難であり、コーン貼り合せに時間がかかり部品単価が高くなるという問題があった。

そこで本発明の振動板は、一般円錐状のコーン面周辺部を平面角形にし、その周辺にエッジを貼り合せ時に円と角の2ヶ所の平面部で位置ぎめ出来る為、貼り合せ時間を短縮することが出来、安価な角形コーンの振動板を提供することが出来る。

問題^とを解決する為の手段

この問題点を解決するために本発明の振動板は、コーンネック部より円錐状の構造をなし、コーン周辺部に角形の平面部を設けるとともに、角平面部コーナにコルゲーションを設けて補強した角形コーン面にエッジを接合するものである。

作 用

一般円錐状のコーン面周辺部を平面角形にし、その周辺にエッジを貼り合わせるにより、安価な角形コーンの振動板を提供できる。

実 施 例

以下本発明の一実施例におけるスピーカの振動板について説明する。第1図、第2図、第3図に示すように、円錐状コーン面1の円周辺部に角形の平面部2を設け、その角平面部コーナにコルゲーション4を補強リブとした角形コーン面にエッジ3を貼り合せてなるものである。

発明の効果

以上のように本発明は、一般円錐状コーン面の周辺部に角形の平面部を設け、さらに、角平面部コーナ部にコルゲーションを入れて補強した角形コーン面にエッジを貼り合せてなる角形スピーカの振動板により、金型費及び部品単価が安価にすることが出来る。

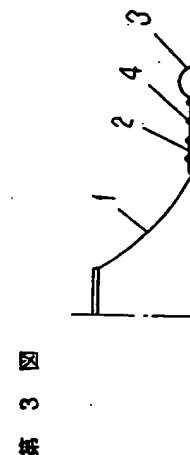
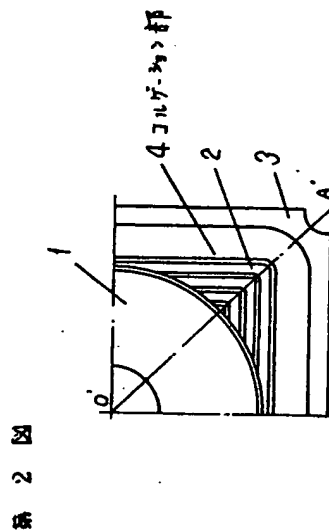
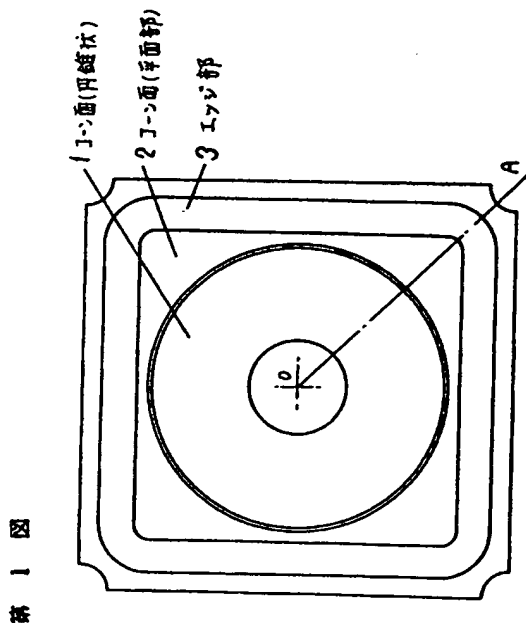
4、図面の簡単な説明

第1図は本発明の一実施例における角形スピー

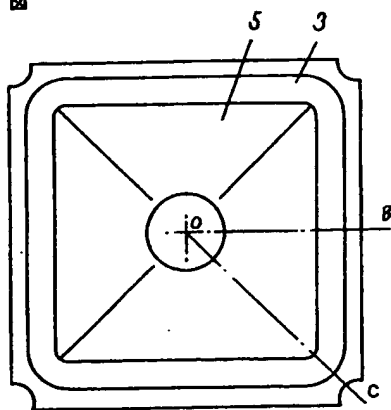
カの平面図、第2図は同要部裏面図、第3図は同O-A断面図、第4図は従来の角形スピーカの平面図、第5図aは同O-B断面図、第5図bは同O-C断面図である。

1……コーン面(円錐状)、2……コーン面(平面部)、3……エッジ部、4……コルゲーション部、5……コーン(角形)。

代理人の氏名 井理士 中 尾 敏 男 ほか1名



第 4 図



第 5 図

